

繪本豐臣勲功記

二編

三

4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8



繪本豊臣勲功記二編三之卷

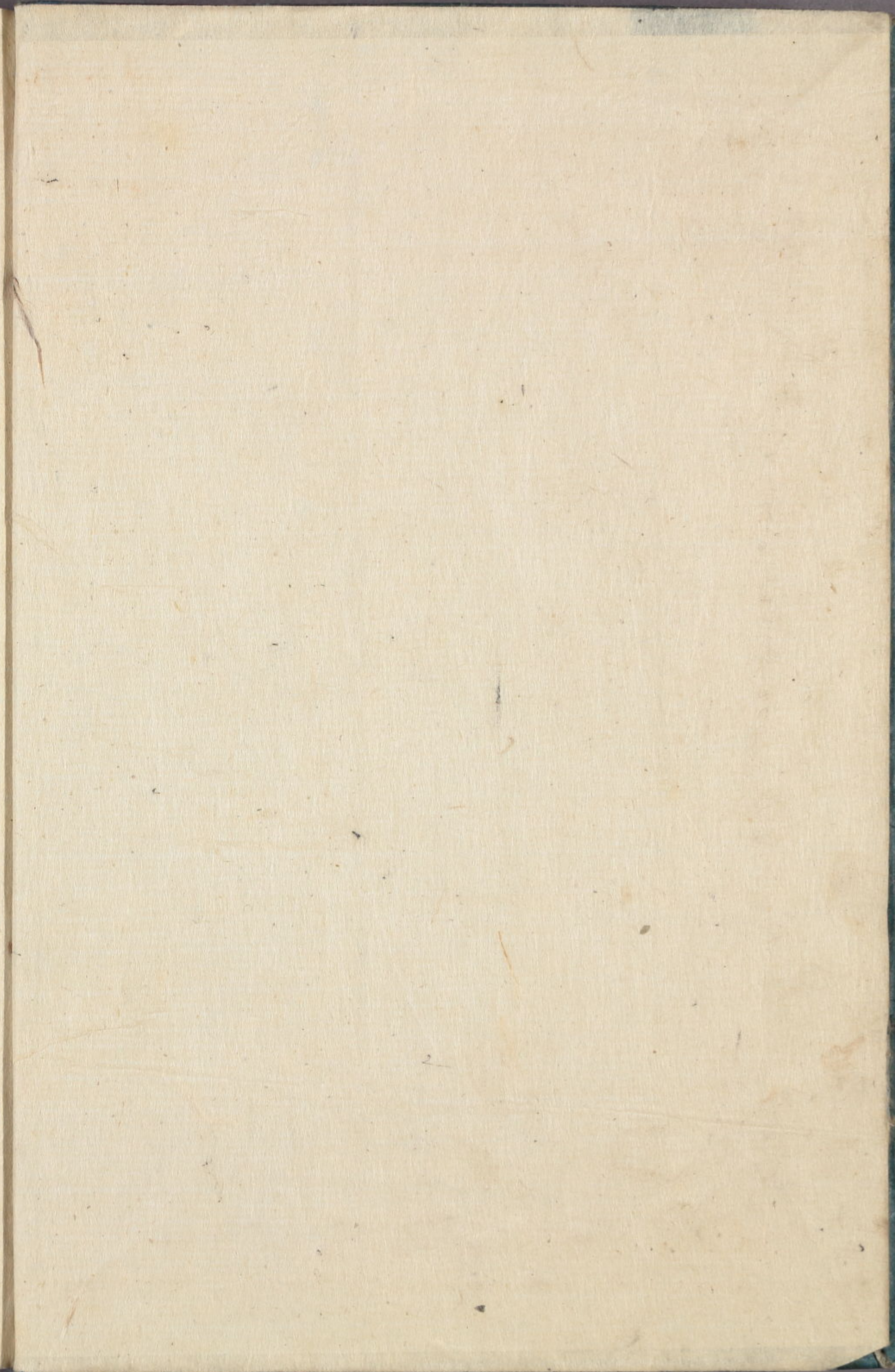
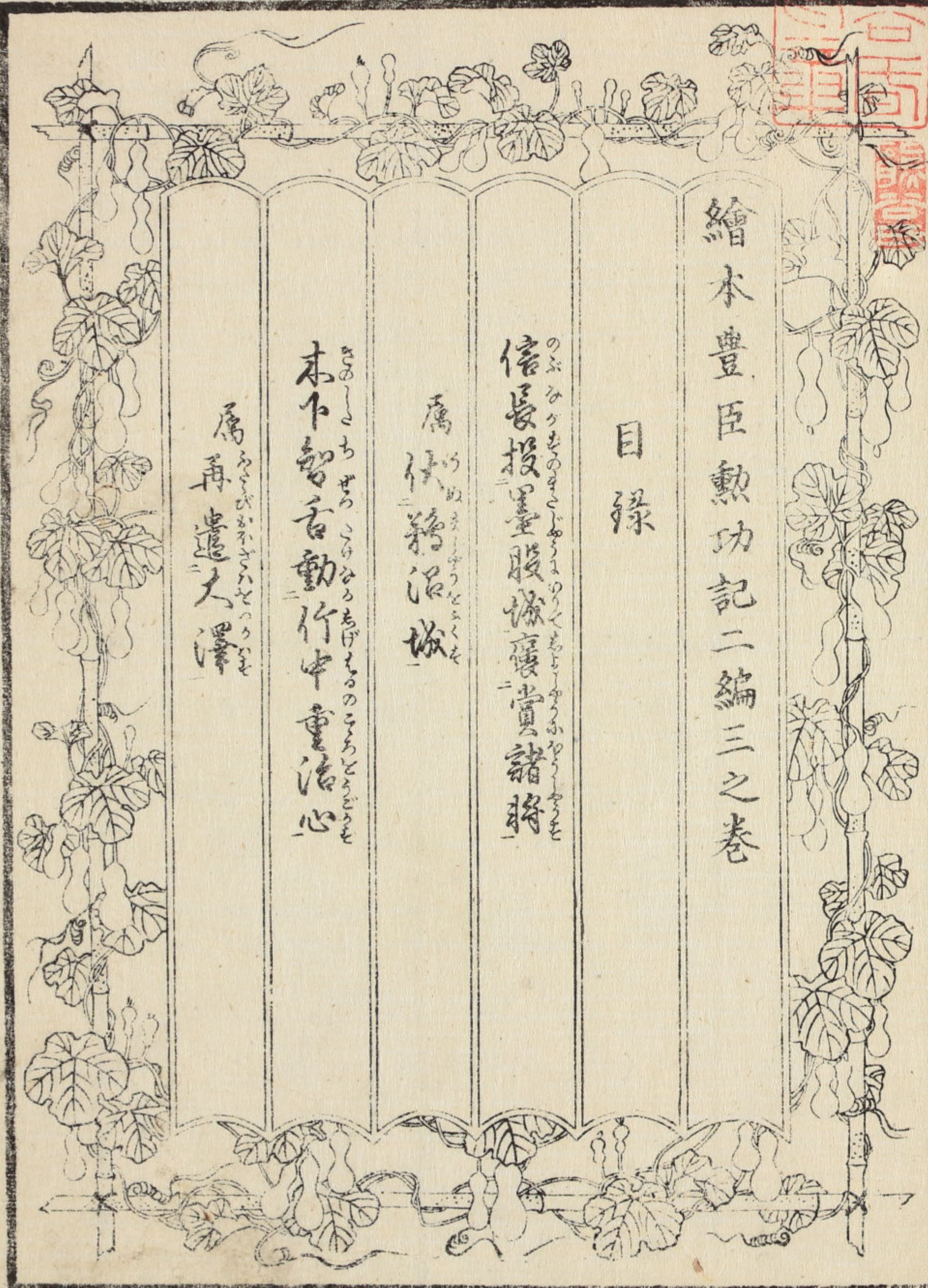
目錄

信長投墨股懷賞諸將

屬伏務治城

本下智舌動竹中重治心

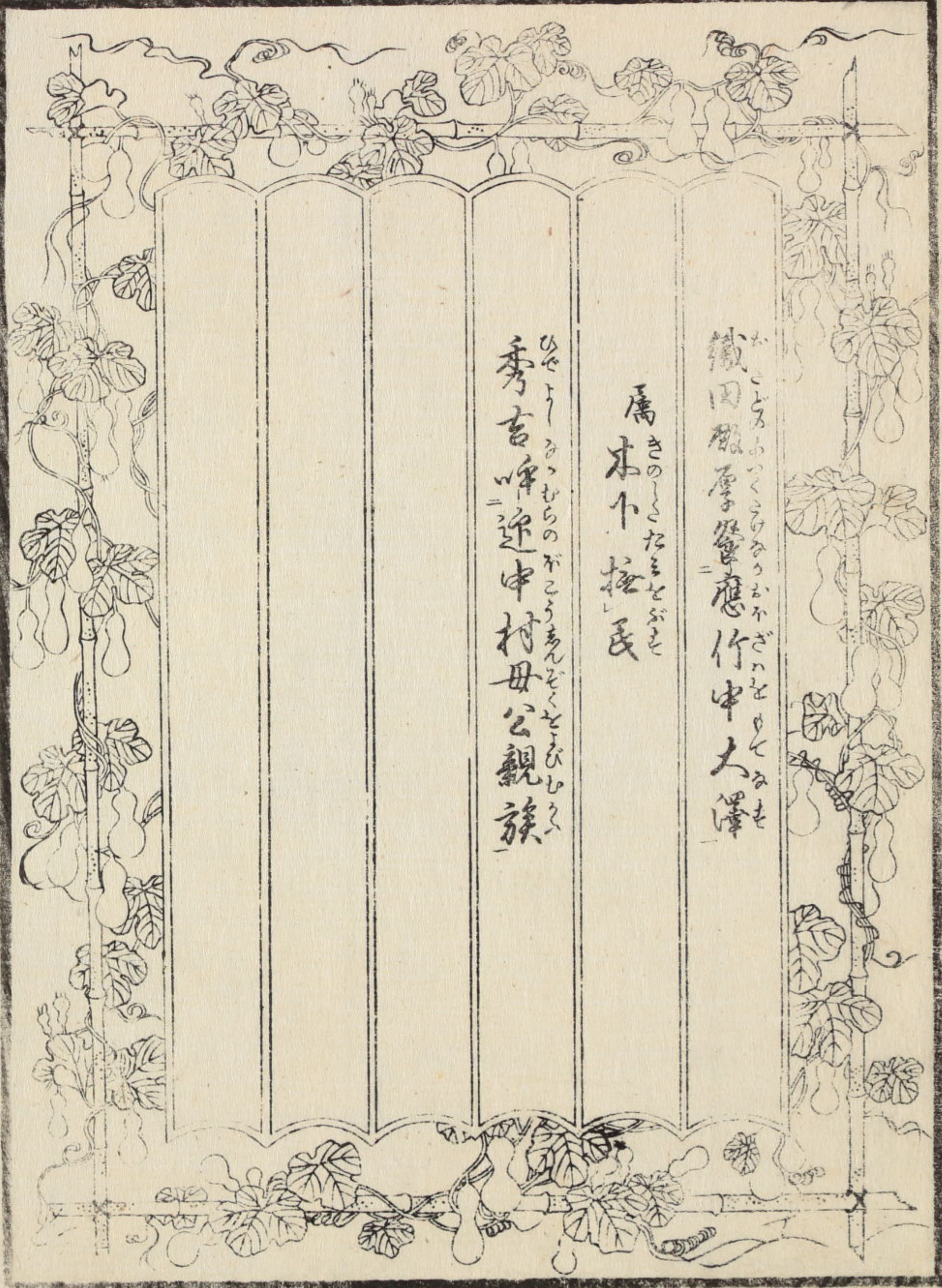
屬再遣大澤



織田殿厚賞應作中六澤

属木下松氏

秀吉呼迎中村母公親族



繪本豊臣勲功記二編卷之二



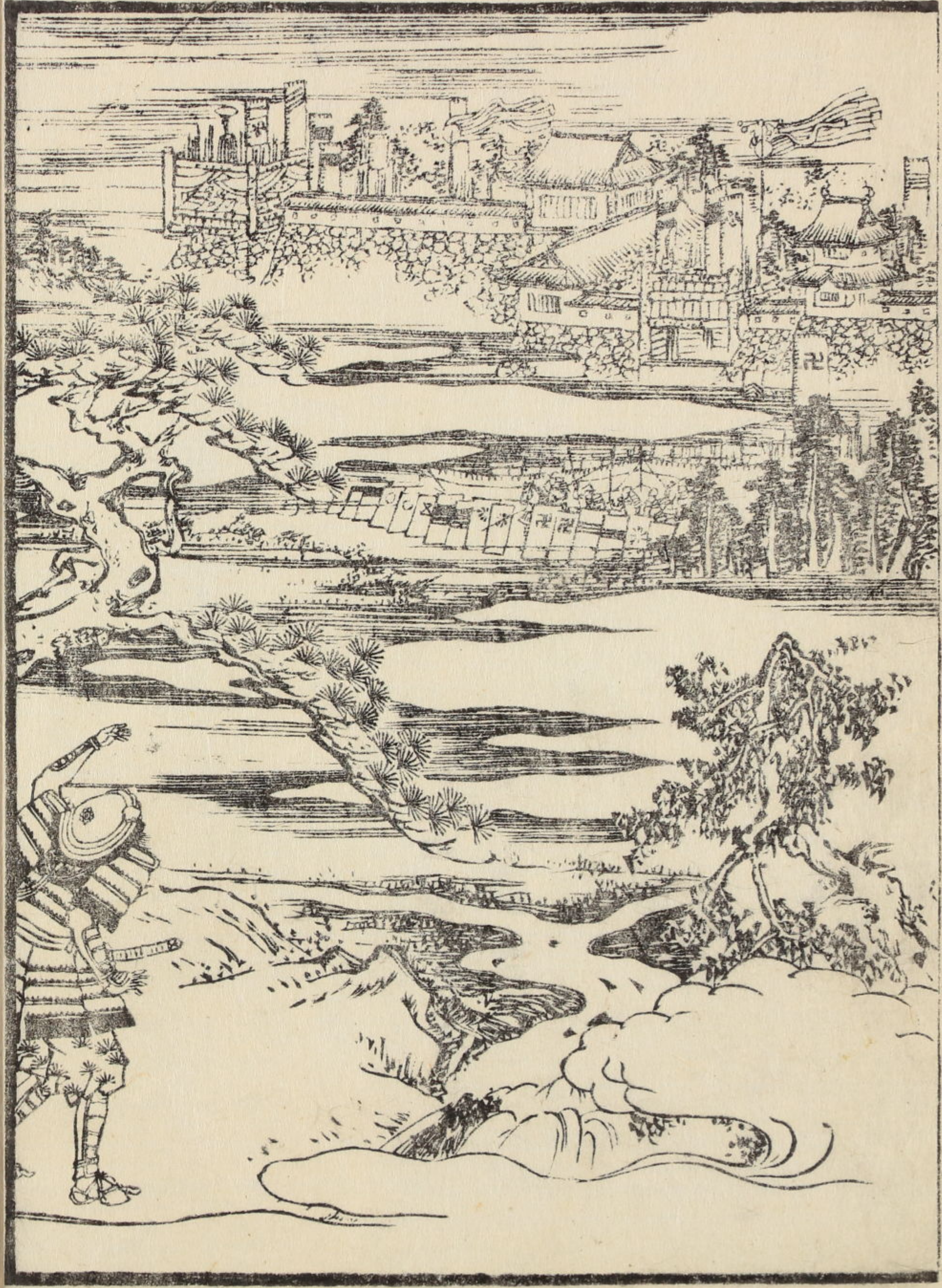
江戸 八功舎 徳水刪補

信長授別股城獲賞諸將属仕務汝城

復道の室小横とて東雲成さる小川の龍を長橋は波小川をいさ
重致さるになんの虹ぞと願ひ素皇の阿房を賦を驕奢あらねと現當遠
小洲股城の結構は統あらざる新を室小横とて長城の漢々とて
一夜小現せん虹あらざる龍子の隙小澤とて成べんと濃列武者
の兎輩同業肝を落し魂を清し人間石依りともあらじと怖懼のふ
して今ハ勿と攻る我も折すかハせん日目々夜々空下り評議とて過けり
然ハ木下秀吉の日量七日小結構成就をりとも寨樓出牆あんと白
くと思へる一時の頓智を用いらま且ハ歎を歎んこめ壁ある火小都



秀吉の木識智
 半前あり
 洲股城と
 築得て
 美濃武者と
 敵馬殺せしむ



て板と張つて張りしりく色をくまひ宛漆喰にて塗固め矢使間を閉するも
 目入て出敵する俾ひつゝも。諸法別々の織田信長遠道本下軍
 功と賞賜あり其要渾と見物せたるに五千余騎ありて出馬し以て別後城の
 趣きおふ本下軍と所よりも人数せめて路次の程二里をりて馳進せり
 といへる自軍の城門外に布草を敷き河迎小出で諸備をせし信長詰と河内
 あり馬と標平と跳卸を以て本下軍と捉へて子孫智謀首目あらぬ事ありと
 今般の功小美といふ莫大と謂つて一月之を賞せりとも程ぞ。予今日
 後收當國小馬とせしこと全く汝が勤勞と宛も嬉しげに賞せり。尚吉部
 ひま備とて引ひ向ひたれ河内小出が微忠の終小善請の和作の。又とも
 君は所威光をん。いんを公士お務りて粉骨砕身つらまらんや。軍士候の
 申小就く。輝波空稲田日比野青山加治田松系かどの。或士の百丈不當の

英雄にて遠道の戦忠大。小候加之今川攻の。河内加勢と申之。自軍の
 脱氣と禪しより。永来當國の沖出馬も。米俵が奇貨の方便より。
 自軍の危難を救ひし。公して君の忠勤既小之。遠道然すとまひ井は北軍の
 らど。恰清平の言出さる。河内賞賜とて。此上も。河内加勢と申之。
 領ふと織田の園を。彼を輩の禪より。忠節の者と申す。縁て遠道
 の對面とて。わりの。河内とて。別後城小入を。ひ諸を。隅小巡覽
 あり。諸も。防衛は。備嚴重あり。と感賞し。以て。安んず。を。機合小本下秀
 吉。而。河内。輝波。空。稲田。大將を。以て。河内。永来。へ。推挙。を。信長。大。喜。小。宣。ふ
 中。自軍。北軍。永来。より。孫吉部。が。戦力。と。て。奮忠。の。精神。を。竭。せ。し。快。う。所。知
 こと。あり。然。中。遠道。の。當城。修理。の。報。り。數。度。の。勤功。を。ま。の。ら。む。夜。殿。は
 播。石。上。小。橋。の。具。を。用。て。孫。藏。敷。多。段。段。一。系。を。双。の。忠。義。と。謂。つ。て。今。上。を

本下が令小属。當城を堅固小守を催して。昂率の賞として黄金若干
 賜りし。是は。輝次が當城を力に連貫加ふ。刻に。評賞。其を。感激。流して。還
 出。次。小。秀。吉。を。近。く。召。され。その。数。度。の。勲。功。あり。も。い。ま。賞。を。行。は。せ。し。
 不。智。あり。當。城。を。守。り。と。命。を。秀。吉。兼。所。り。居。る。者。の。忠。を。錫。功。を。勵。む。の。
 尋。常。あり。當。城。の。功。あり。も。家。系。小。恩。賞。を。望。む。此。ま。で。身。小。余。の。評。賞。を。
 羨。り。己。小。大。功。を。領。する。の。より。遠。道。又。一。城。を。假。興。せ。ら。ま。む。評。賞。を。入。
 給。難。然。し。あ。が。ら。願。ひ。奉。る。義。あり。黄金。小。賜。らん。や。と。重。き。を。信。長。國。へ。
 外。へ。新。の。容易。を。こ。と。かん。ぬ。と。願。ひ。の。如。く。賜。り。ま。す。藤。吉。弟。大。小。喜。び。田。系。
 へ。言。出。し。る。や。の。遠。道。集。め。一。千。余。人。勲。功。然。こ。と。あ。が。ら。も。器。小。一。て。田。む。
 べ。れ。と。止。ま。ん。ざ。る。と。あ。る。も。故。と。言。は。せん。小。小。後。縁。に。款。地。の。勲。靜。を。伺。せん。と。め。
 渠。係。と。以。て。伏。鼻。小。洞。者。宮。安。あ。ま。り。次。小。遊。し。め。ん。周。に。恩。賞。の。賞。を。賜。へ。故。

返。さん。と。存。する。あり。然。も。渠。係。と。又。幕。役。使。へ。時。節。も。あ。ま。り。新。の。料。程。
 俵。あり。も。新。須。賀。堂。一。千。二。百。余。人。と。留。免。余。の。盡。く。腫。た。た。ま。を。在。取。く。へ。
 帰。さ。ま。り。然。へ。此。輩。時。節。小。小。機。會。小。觸。る。國。の。勲。靜。を。注。伸。せ。し。本。下。
 居。る。東。國。西。國。小。方。畿。内。小。至。る。ま。で。治。乱。無。廢。と。知。得。り。備。又。後。田。殿。
 洲。原。の。公。糧。運。贈。の。事。を。命。出。さ。ま。り。藤。吉。弟。言。は。せ。し。他。國。小。軍。馬。を。
 出。せ。と。ま。り。其。國。小。と。名。糧。を。取。る。尾。別。より。の。運。贈。の。益。の。得。小。催。し。し。然。
 然。と。ま。り。當。城。の。公。糧。の。當。國。小。これ。あり。此。儀。の。濟。心。靈。を。一。只。心。願。小。然。評。
 評。孫。家。の。旗。下。小。竹。中。半。兵。衛。重。治。と。い。ふ。者。あり。此。を。一。山。林。小。兩。居。一。と。せ。し。
 道。を。小。切。り。ま。す。渠。が。心。中。い。ま。決。せ。し。若。秋。孫。孫。義。心。を。一。渠。と。評。し。人。招。
 ぐ。必。ぞ。出。て。補。佐。せん。然。も。是。の。評。賞。一。人。大。事。小。い。ふ。小。も。な。り。行。中。と。評。將。伏。下。ま。
 福。元。ま。め。ら。せ。猶。其。上。の。西。原。清。盛。の。二。人。衆。と。も。陪。添。さ。せ。ん。然。も。响。を。評。孫。家。

討渡をこと最易う。津合戦の義の今昔く。津田入のせむをさき小長
 が進進と津待もまよと密意細々と言吐けまは信長大威下まひ。本中
 が勅小信せ。清洲へ帰城しむひたり。斯く本中藤吉守へを勢一十七百余人
 味と堅固小守護を。近隣の諸士を帰伏せんと種く工更か。百高
 國各勢郡鶴沼の城に大澤次舟左衛門尉重時の本中が隣中大澤を
 水重獨の兄ふして。系藤吉守の臣中ありしが。龍貞を道の君する小岡人を東
 軍軍小従がらんと。同者小舟下へ所寄るを。水と石出。是中の舎見
 次舟左衛門今龍興のを禮と懼し。ひれ誓うよしと所及す。然もまは龍貞怒
 と奈し。物取と攻人も計りし。是下早く鶴沼小行き。舎見と勅め。織田の家小局
 上と懼と。獨と教介らまは。水も事やうを。意あるを。異儀あり。と。信務沼小
 重時小對面して。稍疎懐の情と。漢次小本下。智仁と論。信長の大雨を後

とて降参の事と勅めらる。是まを裁遣り通番く。此軍小領。はまは。次舟左衛
 速小諾受。是より水小導まで。洲役城小来。らまは。秀吉大不執脱る。ト。
 然も其同道と。清洲小到り。織田殿小目人。交をせり。ふと。と。次舟左衛
 出迎へ。密所小信。と。禮と厚ふ。まづ。重とまおらま。町守小密意。姑く
 重家と。徳と。后。密と。清洲へ。伴と。と。淡野。彌。長。政。と。別。股。の。田。守。と。ま。し。
 大澤とも連く。速小清洲小到り。大澤次舟左衛門。降参の事と。言吐け。を。織
 田殿を。れ。も。不。真。の。體。と。大澤次舟左衛門。と。り。る。者。の。過。つ。こ。ら。つ。者。と。
 水と。つ。ま。へ。て。予。と。謀。り。し。曲。者。あり。と。俄。の。降。参。心。元。か。し。欺。計。あらんと
 宣ひ。ら。ま。は。本。中。と。相。違。へ。要。時。言。せ。も。出。さ。し。が。形。を。あ。ら。じ。と。推。し。
 り。さ。し。方。僅。大。澤。が。降。参。の。と。濃。武。士。若。は。家。風。を。追。て。隨。逐。さ。す。發。揚。を。さ。す。
 隨。て。津。邊。就。き。ぬ。と。つ。れ。と。一。般。や。う。の。津。邊。近。來。の。て。憚。多。く。推。す。も。極。く。津



信長の
疑心を
蒙る
大澤次郎
左衛門壯を
到らんとす

徳川家二編卷之三十一

七



徳川家二編卷之三十一

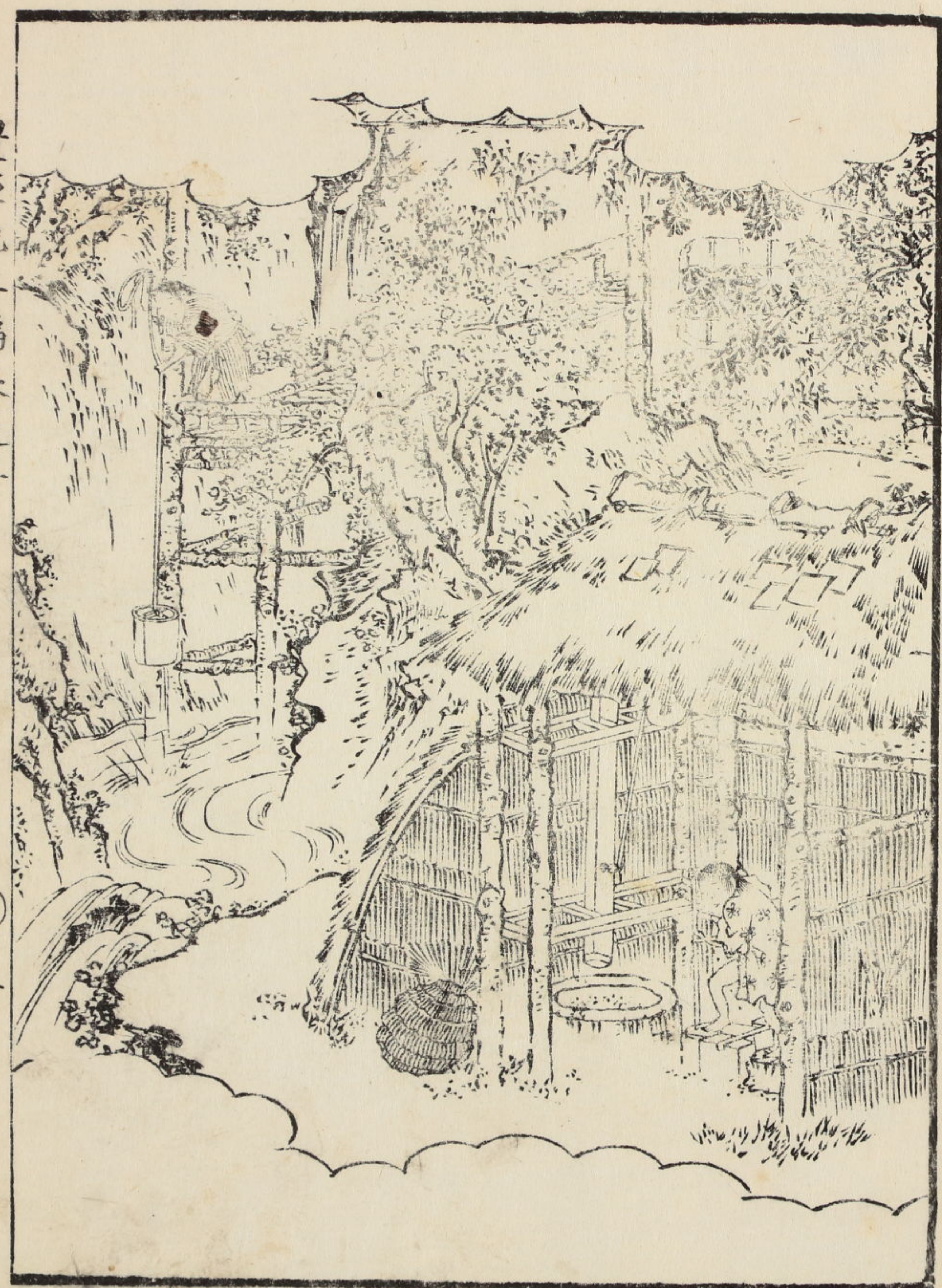
棄る秀吉ならん今忽然として兩人が女中の工をせし遠より得たりそ
 義と謂は外ならん我君頼朝栗原山小田原せらる竹中重治重治
 と深く慕はんを將依おせんときとて幸ひ是下の重治大人と執事
 なるよしを所及り登り竹中が用居小趣き只頼朝は彼人の清洲の家
 向せきをむり此上もなき大功小く我君疑心と解むと媒とありぬ。然
 あり响ひ来も是下も誤死と脱るる却て恩賞の幸あらん饒他用
 居小撥り竹中が織石心せらる碑死切めて織田家小階らよと傳成
 小宮易らるらる。某情小形撲と裏し。用居小到る方を巧ませ。渠が心
 危し動かし置へ。然る後へ是下を行へぬ如くと解さむと彼人
 多くは仕立て。聖天の某山へ越え遠き時某と引く。と高き大津
 或は収びあるひは帰る木下が智謀のやと小感仕むし。仲愛不織の人小ことと

思入て後ひける。信く木下藤吉舟の浪人の形松とて栗原山
 の源流ある竹中重治が用居小も侍官重さんと較りし。後の某と
 需めりる小時刻に討つしとある。日と山が某小沈没し。寒く松尾小持つ
 音しと山松間水通小舟を。信ささながら同着やまらん。越くと此小舟の
 童児の着と着あや。宿願とて清く度なり。稍仙境小招くとあやと。雲時
 ちうらに。信小い人もちうらしや。半を信とてうら出来。木下が宮儀皆法と熱
 とうち瞬度流て謂るや。我まが髪に剃除るぬ。髪をせと道き。用居の身あり
 歎待まらるを儲かると。一願とていふと。高きとて切ある。應小あり喜ひ
 彩の懸の繰せ小こと。小も武士は形撲のみせと。流水浮雲小任せる。諸事
 侍の身あり。あまの雷山中の風露と。清くをむり。髪をせと。意有とて。信と
 謝し。煙願小進め。竹中重治。童児と呼べ。茶と熱と。せ。某と知と進見

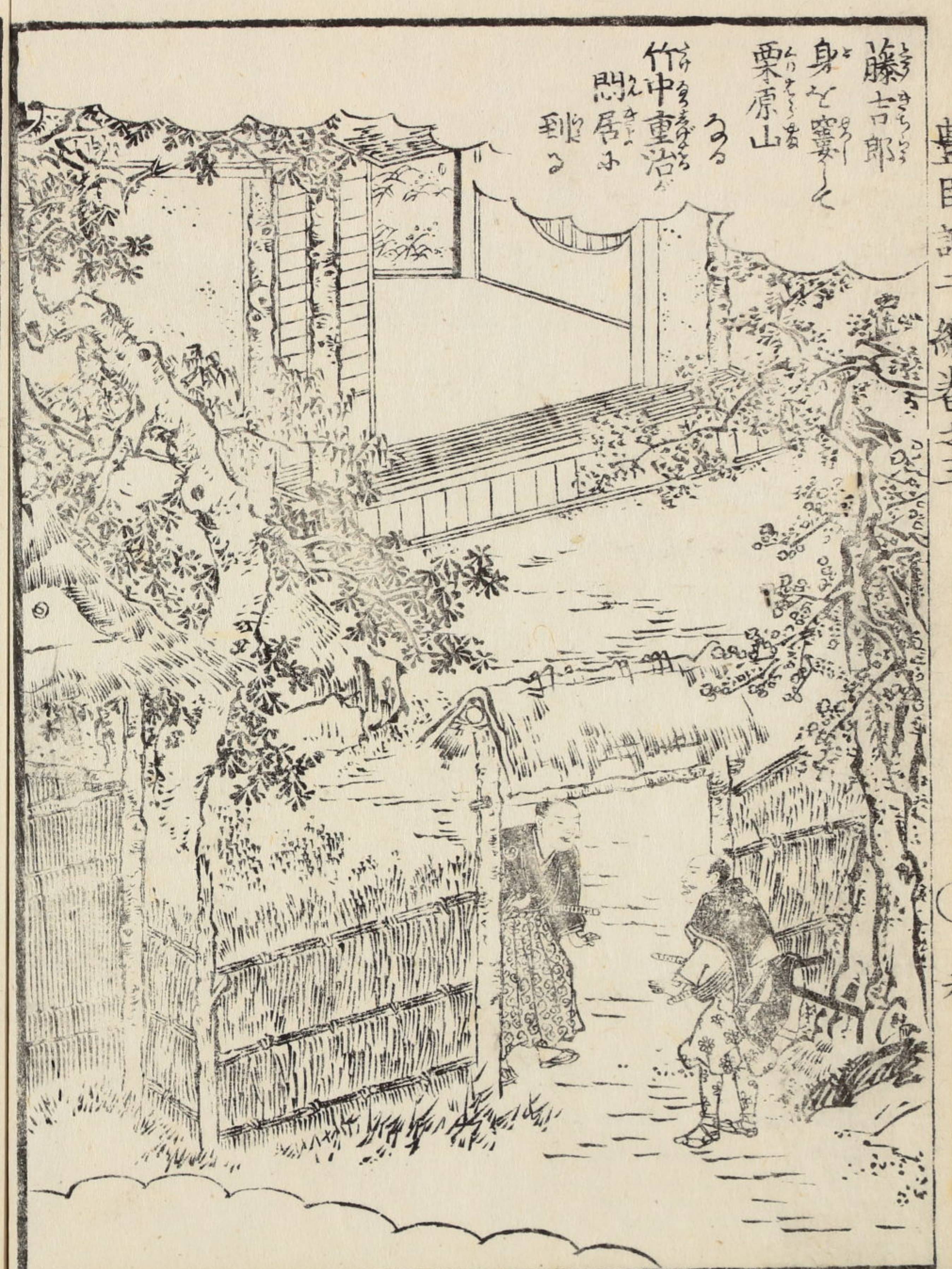
一む秀吉ありきと略し終る。言結福小細をりるや。遠近の儀據らう。實小
 凡あらむ候。候小諸國を經歷し。兵法武術を修練せしむ。只願好む儀
 とも運拙し。且師不值偶也。方僅亭主人を規よりする。小文道武備の
 こと小欲く。堪えむと見向らう。小か修志を憐れと思さる。小か列小
 あり。多し教導し。まづ小を懐こし。小過らう。と所々重注亮余とも。笑咄世の
 塵を厭ひ。避て此山に棲居し。ととも。信を文武小達せしむ。況や師とある。器量
 ありね。弟子とのいふ。のを得ざる。得ざる。是下。何れ。良師を擇む。文武を修練
 一むふ。や。と。同ま。る。小中。然。は。文武の道小達し。と。治め。る。小。任。ん。爲。と。器。量。重
 治。目。録。し。る。や。う。個。を。と。ら。う。ら。撰。ん。知。り。く。學。ぶ。と。ら。動。く。成。る。と。何。ぞ。他。人。の
 教。余。小。属。ん。と。所。より。小。中。任。せ。し。謙。遜。恭。一。く。一。禮。を。賢。者。の。一。言。是。予。命。の
 も。撰。ん。し。只。今。の。世。創。り。て。心。魂。小。徹。く。覺。悟。开。も。近代。に。游。の。あり。也。

麻の如く小素起。万民塗炭の苦小臨く。姑くも安らむ。然れども。智謀をこれ
 一侍士ありて。實仁大勇の君を披け。不仁不義を誅伐せ。天下。界。半。易。ら
 る。つ。れ。小。生。生。單。菴。小。閑。觀。り。世。の。動。靜。を。窺。む。ぬ。大。丈。丈。小。似。合。し。ら。じ。
 信る。幸。苦。世。間。小。も。天。下。を。治。め。万。民。を。安。途。を。た。ら。せ。良。將。を。求。ん。ん。な。り。小
 一もあらむ。小尾。頼。光。愚。者。小。と。識。り。純。き。小。人。を。ら。世。頼。小。氏。安。く。その。業。を
 勉。め。ん。時。也。の。の。條。小。や。あり。ぬ。也。と。侍。ら。う。外。別。心。を。此。東。世。俗。の。譚。話。を。所
 小尾。別。の。國。守。信。長。の。智。勇。兼。備。の。良。將。小。と。士。を。愛。し。民。を。慈。し。不。道。を。懲。し
 て。天。下。を。補。佐。し。尋。常。あら。ぬ。君。あり。必。定。天。下。を。東。瀛。を。び。ぎ。器。量。あり。と。い。ふ。や。の。多
 一。も。ん。生。の。業。も。小。佳。也。一。バ。その。虚。り。實。り。を。知。む。と。小。語。ら。せ。る。と。い。ふ。と。行。中。必。心。ち
 顔。色。あり。と。し。て。眼。を。睜。り。声。を。異。げ。諸。君。を。汝。の。織。田。家。の。物。并。も。も。つ。様。面
 冠。者。ある。飲。食。を。と。爾。小。記。る。尾。小。つ。れ。信。長。を。り。く。治。世。の。君。と。評。説。し。て。我。意。を

藤原山



藤古郎
身之寶
栗原山
竹中重治
居小
到



藤原山

九

動らざんぞと思ふとも。火火の決志大磐石より。珍重し。文三劉備再生
 として招くとも。此国居て再び出ん律どかりを。憎いや。織田の敵あり。
 ひと敵國小靡くつた。を春の言語と吐ん。疾をまよとひふ。赤吉織田
 を當國の敵と宣ふ。原當の領せし人の領せし國と。おがごや。は。原永原代
 の守護し。信長土岐家小遺恨あり。れど只。秋。孫義龍ぬ。信長
 の岳又道。入道と執し。信長も机を思つ。然るに。十。織田と。して
 敵ありと。謀るる。若び。孫家。の。小。忠義を。竭を。所。不。存。る。は。今。井。も。就。興
 らざりて。良。と。お。の。ま。ま。お。ふ。や。不。道。と。思。へ。る。も。や。良。ら。る。が。ひ。ひ。の。や。
 果どう補佐し。ま。ま。と。て。此。小。国。居。し。ま。ま。を。ま。つ。不。道。と。思。極。り。ま。る。諫。め。る。
 若を救ふ。小。願。初。も。又。做。玉。と。ぬ。民。の。國。籍。も。所。を。國。の。滅。し。も。背。向。小
 賢。の。も。思。ふ。孫。家。の。忠。居。ら。る。と。先。生。も。然。こ。そ。お。が。さ。ん。が。龍。真。心。情。極。り。て。國

入教さ百姓離れ遠く。天徳と崇り。思。國。家。と。ま。ふ。大。厦。の。傾。く。一。木。の
 ち。あ。る。所。小。あ。ら。ざ。大。國。の。亡。び。ん。と。ま。一。人。の。力。小。身。と。こ。と。あ。ら。ざ。思。ふ。ま。ま。あ。ら。
 め。え。小。こ。と。新。山。中。小。親。指。せ。ら。ま。世。と。違。も。ふ。ま。ま。も。國。の。は。ん。祖。田。系。は。り。
 相傳る。不。あ。ま。近。道。之。義。龍。の。好。ま。り。の。ゆ。え。今。身。孫。家。と。其。小
 先。生。の。家。名。を。滅。せ。ん。と。誓。を。ま。ま。ら。最。惜。さ。小。憚。り。律。と。願。を。ま。ま。ら。思。を
 獨。ま。の。も。呼。賢。計。め。や。あ。ま。よ。と。听。行。中。精。要。時。機。極。り。つ。る。能。あ。り。し。は。屋
 たる。色。ま。冷。笑。ひ。ま。下。の。實。小。説。書。あり。種。こ。そ。お。小。理。を。つ。け。ら。る。ど。い。は。ぬ。あ。ら。
 純。の。筆。の。の。難。言。小。歎。つ。る。も。織。石。心。の。大。丈。丈。何。と。い。ひ。と。動。ら。る。ま。ま。あ。ら。く。説
 真。を。諫。ま。も。時。愚。ふ。て。更。不。用。ひ。を。用。ひ。ら。ぬ。を。お。が。ら。諫。も。又。思。味。あ。ら。是
 孫。家。の。運。極。り。滅。ぶ。た。時。い。ま。を。知。り。て。此。山。中。小。親。身。を。る。國。が。都。と。存。こ。と。を
 とも。ふ。ま。ま。の。是。を。申。し。義。は。道。小。言。ひ。て。お。て。義。を。達。ら。る。人。間。の。盛。衰。定。ま。ら。

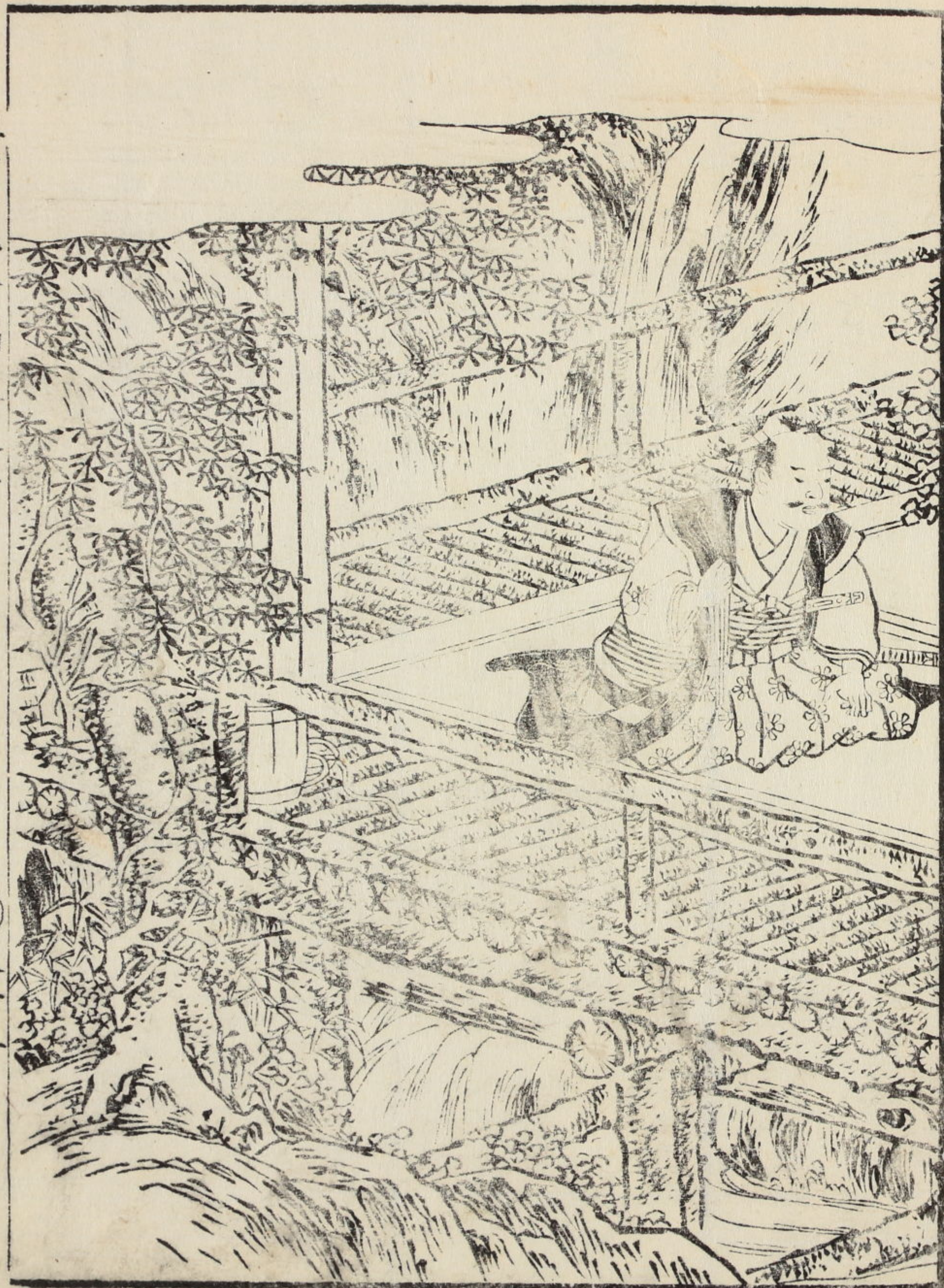
あつて満ちて缺る又然あるは。今更怒り悲むらんや。嗚心既小決せり。利害の耳言
 を用ひりとのふと小下大不噴ひ。吁。竹中重治大人の近代。並双の賢者と所
 一が。方僅服。前見系し。之は心腹と。守をねらふ。死生。白の相違り。ある
 小下ら。下と。怒る。之。竹中。怒まる。顔色。小下。嘘。は。固。之。言。吐。する。に。足。ら。下。と。何
 故。ぞ。過。當。の。之。禮。赦。と。下。と。言。を。放。て。憤。り。を。小下。思。て。儲。も。之。も。是。中
 不。どの。武。士。が。是。計。の。理。小。迷。ひ。ま。つ。原。来。是。下。の。秋。藤。家。教。代。の。幕。下。する
 也。へ。小。其。義。と。守。る。と。宣。ふ。詞。お。り。は。く。憐。意。あり。義。典。の。祖。父。道。三。の。原。是
 家。孫。家。の。臣。下。小。く。更。小。孫。を。代。者。あり。し。ご。る。君。の。家。國。と。押。併。し。秋。藤。の。若
 字。と。言。を。律。誰。に。これ。と。思。ま。さ。ら。ん。是。下。秋。藤。家。の。忠。義。士。あり。は。道。三。入。道。と
 征。伐。し。て。秋。藤。の。一。族。を。取。ら。し。む。べ。し。誅。ある。に。慍。ひ。な。ず。亦。て。道。三。小。使。ひ。不。義
 士。と。捕。り。い。仙。事。ご。や。又。義。頼。又。と。殺。し。て。家。督。と。奉。祭。ら。る。逆。罪。の。人。と。知。り。し。

△道三の
 松重庄九郎と
 号す秋藤
 山城守兼基
 本姓秋藤秋任
 秋藤は秋任
 秋藤は秋任
 秋藤は秋任
 秋藤は秋任
 秋藤は秋任
 秋藤は秋任
 秋藤は秋任
 秋藤は秋任

そとと補佐をせり。此より忠小もあらむ。義小もつらむ。正父の勇者が所業小して。
 取ら小足ざる。不謂あり。義頼天の責せうけ。早世し。その子カ龍母。思味小して。
 其惡風を次ぐ。その國民こま不救離きて。滅亡。漸く。近近。小あり。こふ。と。起。り。つ
 休めも。入。ま。さ。ど。山林。小。退。く。と。義。あり。と。せ。り。心。い。り。小。後。合。六。道。と。龍。母。保。守。小
 家。孫。の。血。縁。あり。とも。家。運。傾。危。に。改。礼。を。寶。印。移。ら。ん。と。さ。る。幼。小。孫。を。これ。と
 存。せ。と。共。小。ま。こ。も。誰。う。い。と。賞。懐。と。さ。き。秋。藤。と。も。用。漸。より。災。儀。の。必。や
 と。い。ふ。小。も。あ。ら。む。土。波。遠。山。の。西。家。善。へ。國。と。信。る。仁。智。あり。終。小。秋。藤。の。有。と
 ある。律。國。主。の。器。量。あり。あり。旗。下。の。老。將。諸。士。土。波。遠。山。の。家。と。捨。て。秋。藤
 家。小。從。ふ。も。大。平。と。思。ふ。や。今。其。秋。藤。家。衰。へ。義。頼。惡。逆。小。と。早。世。し。
 龍。母。頑。愚。小。と。改。事。を。礼。せ。り。氏。之。の。惡。政。小。若。く。悲。し。む。後。小。一。更。恨。之。と
 會。む。响。ひ。日。雨。ふ。ら。む。と。謂。小。あ。ら。む。況。玉。中。の。巷。民。們。幾。万。人。の。恨。を。是。を。平

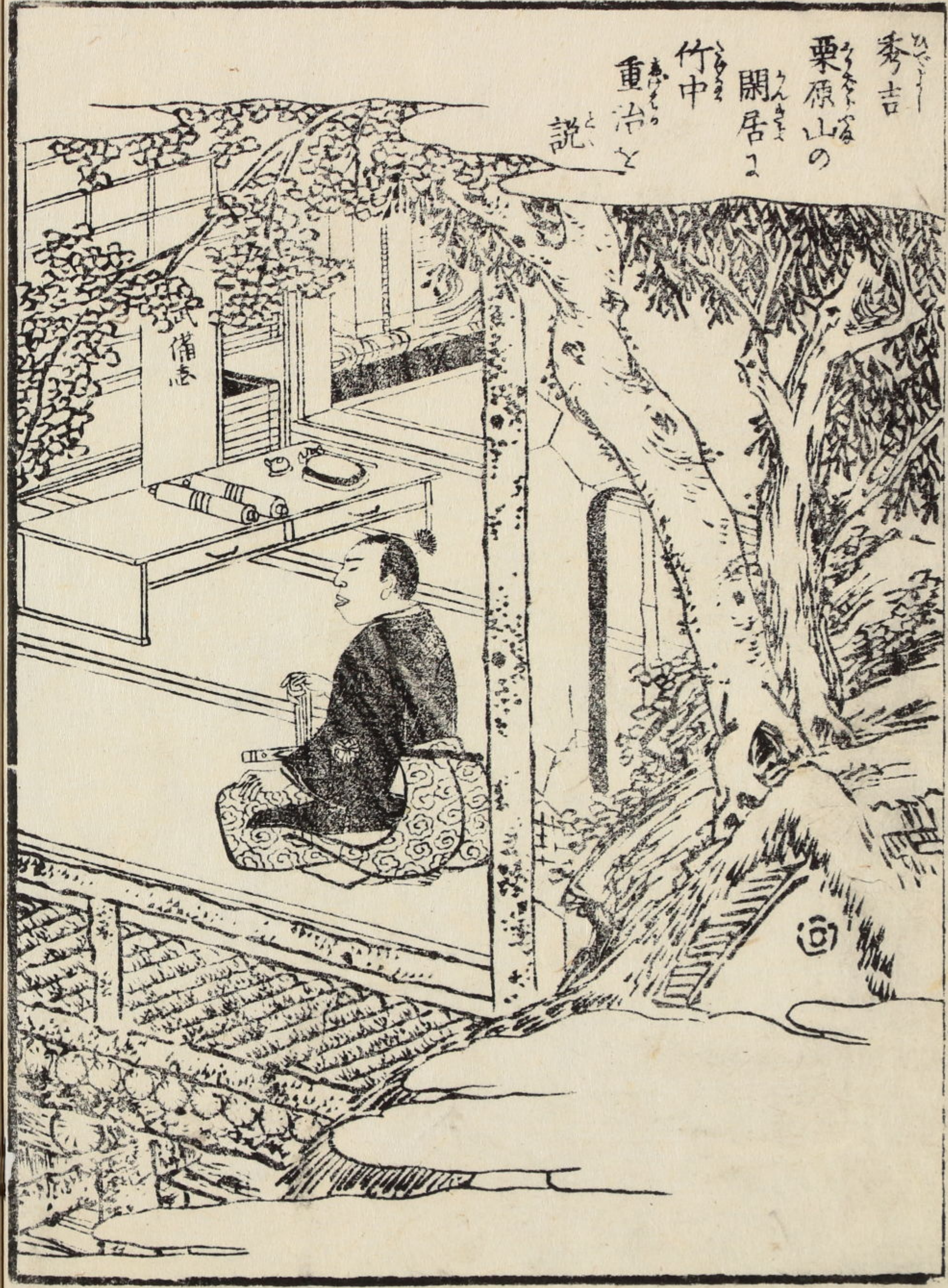
計り玉ひに僅小私の意地を違ふと天下の公道を棄ち去るは是れ大失夫の取小
 ありと智謀武勇もそ人の行ふ事小徳こそ。末世の無徳と實を失はせらるる
 あら英雄おておしりら。天下の民の爲小せせ。空しく一箇の小節と守り。末世
 小徳を主。後不徳。進歩失止千方あり。徳を礼せ小せ。身は及ぬ。まても
 眞実をて。天下を補け諸民を安ん。四海の聲響を謀り。六天。意小稱ふの道
 程あり。夫小稱ふ人の道あり。是下が如く。深智大勇。世を救ふ器と持る。こそ。世
 用ひ玉ひぬ。夫小賢人の小違り。今期小子が。重き詞分小過ると。お不せ。は。ま。ま。
 貪天理小て。野も私欲と交ぬ。く。く。願く。く。分別ありて。詳小なり。玉ひ。ま。ま。
 と韻声陶々たる。傳ハ流沙小橋と流さ。か。か。古路一兵の流さ。か。理非。解。泉
 漢ら。ま。ま。六。竹中ハ胸と刺さ。か。か。大息。継て。黙然。さ。し。稍ありて。撫身。より。流
 汗と推。か。か。此山。中。小。執。居。せ。一。傳。不。存。あり。て。の。こと。か。か。ま。ま。ま。

の爲小親改せら。推て。善ある。辞多し。道之ハ。秋。孫の。氏。族。の。ら。ぬ。ま。ま。
 道之小従ふ。傳。不義士ありと。謂。一。言。理小似。微。愈。く。我。の。ま。ま。
 美濃武士都て。道之の。指揮。と。受。て。こ。の。一。秋。孫。の。血。脈。あ。ま。ま。は。り。是。下。も
 存。ト。知ら。ず。如。義。親。の。こ。ま。ま。玉。ひ。頼。義。の。種。あり。ゆ。へ。ま。ま。と。家。管。小。て。ん。ま。
 あり。ま。ま。道之の。醫。ま。ま。今。く。義。親。の。謀。ひ。あ。ら。ま。ま。勇。士。傳。の。せ。ま。ま。ま。ま。
 遂小義親の。不。幸。と。あり。ま。ま。増。く。や。就。眞。政。事。小。暗。く。諸。士。の。品。格。と。傳。り。傳。歌
 き。の。國。家。滅。亡。の。根。元。あり。ま。ま。子。房。孔明。の。ま。ま。を。補。佐。さ。り。漢。護。國。家。と。傳。り。ま。ま。
 い。ま。ま。一。得。べ。けん。や。我。その。滅。亡。と。見。る。に。悲。ひ。む。ま。ま。此。小。隱。道。一。つ。あり。國。家。の。泣
 亂。僧。環。小。於。く。の。ま。ま。を。頼。る。所。小。あ。ら。ま。ま。悲。心。む。ま。ま。今。ハ。是。れ。秋。孫。亡。び。ん。影
 小國。之。の。代。き。る。時。新。主。備。よ。く。民。を。聽。ま。ま。と。韓。小。あり。し。め。あ。ま。ま。是。又。隱。道
 閑。散。の。喃。身。小。あり。ても。悦。あり。と。听。より。本。下。存。と。ま。ま。忽。首。を。斬。り。貴。師。を。心



豊後日記二編卷之三

又十三



秀吉
栗原山の
閑居
竹中
重治と
説

備忘

豊後日記二編卷之三

又十三

あらん小一國の民の福あり。願くは、閑居を出野(五)とて、氏の塗
 炭を救(五)とて、我(五)信長國(五)せま(五)居(五)とて、いふ(五)も、天(五)小(五)代(五)て(五)四(五)海(五)と
 つ(五)ん(五)ち(五)車(五)ら(五)ん(五)事(五)と(五)宗(五)と(五)と、然(五)も(五)補(五)佐(五)の(五)色(五)居(五)と(五)て、計(五)汝(五)の(五)謀(五)と(五)あ(五)ら
 ざる(五)也(五)四(五)方(五)小(五)と(五)ま(五)と(五)招(五)ぐ(五)と(五)日(五)夜(五)小(五)心(五)と(五)碎(五)と(五)求(五)む(五)偶(五)々(五)貴(五)師(五)の(五)器(五)量(五)と(五)聞(五)懸(五)望(五)
 志(五)願(五)ある(五)余(五)り(五)小(五)子(五)と(五)使(五)し(五)り(五)実(五)際(五)幸(五)希(五)小(五)時(五)の(五)間(五)織(五)田(五)家(五)小(五)弟(五)を(五)軍(五)籌(五)と(五)
 畧(五)と(五)施(五)した(五)あ(五)い(五)治(五)世(五)安(五)氏(五)と(五)謀(五)り(五)出(五)り(五)上(五)の(五)天(五)意(五)小(五)應(五)と(五)下(五)の(五)民(五)情(五)小(五)恨(五)以(五)信(五)長(五)の(五)通
 足(五)こ(五)ま(五)り(五)過(五)と(五)禮(五)と(五)事(五)と(五)深(五)る(五)に(五)重(五)治(五)後(五)も(五)う(五)ち(五)笑(五)ふ(五)て(五)乃(五)子(五)一(五)端(五)世(五)
 隨(五)ま(五)て(五)閑(五)居(五)せ(五)り(五)又(五)召(五)び(五)出(五)て(五)織(五)田(五)家(五)小(五)仕(五)多(五)強(五)き(五)と(五)慕(五)ひ(五)弱(五)き(五)と(五)棄(五)る(五)
 と(五)世(五)の(五)嘲(五)と(五)免(五)ま(五)を(五)信(五)長(五)の(五)大(五)志(五)ハ(五)然(五)と(五)る(五)ま(五)に(五)行(五)て(五)仕(五)ん(五)緯(五)思(五)ひ(五)も(五)傳(五)ら(五)む(五)
 田(五)系(五)て(五)勅(五)め(五)玉(五)ふ(五)か(五)と(五)謂(五)放(五)て(五)後(五)堂(五)小(五)入(五)を(五)傳(五)う(五)ち(五)小(五)熱(五)睡(五)と(五)り(五)亦(五)小(五)も(五)力(五)既(五)且
 大(五)を(五)一(五)瞬(五)せ(五)り(五)間(五)小(五)早(五)夜(五)も(五)曉(五)と(五)を(五)唇(五)縮(五)と(五)深(五)から(五)且(五)今(五)一(五)遭(五)と(五)行(五)申(五)小(五)對(五)面(五)せ

大(五)と(五)重(五)時(五)久(五)く(五)待(五)ども(五)重(五)治(五)起(五)出(五)ぎ(五)六(五)児(五)童(五)輩(五)小(五)去(五)来(五)を(五)報(五)別(五)後(五)の
 城(五)へ(五)も(五)歸(五)る(五)大(五)澤(五)次(五)弟(五)を(五)爲(五)と(五)報(五)侍(五)せ(五)取(五)夜(五)の(五)始(五)終(五)を(五)終(五)り(五)せ(五)渠(五)が(五)後(五)石(五)心(五)稍
 動(五)出(五)と(五)ま(五)は(五)足(五)下(五)今(五)より(五)取(五)来(五)小(五)越(五)ま(五)謀(五)合(五)せ(五)一(五)糸(五)音(五)の(五)て(五)小(五)針(五)ら(五)ひ(五)重(五)さ
 ま(五)よ(五)致(五)ま(五)ま(五)必(五)然(五)此(五)地(五)小(五)弟(五)らん(五)使(五)針(五)ら(五)ま(五)と(五)謂(五)小(五)道(五)ハ(五)大(五)澤(五)こ(五)ま(五)と(五)飲(五)菓(五)し
 そ(五)ま(五)より(五)一(五)兩(五)日(五)と(五)過(五)と(五)后(五)次(五)弟(五)を(五)弟(五)と(五)只(五)獨(五)行(五)申(五)が(五)閑(五)居(五)小(五)列(五)と(五)大(五)澤(五)あ(五)り(五)と(五)通
 声(五)など(五)小(五)噴(五)鼻(五)一(五)や(五)と(五)重(五)治(五)も(五)最(五)ま(五)め(五)と(五)て(五)精(五)ト(五)客(五)草(五)栗(五)と(五)饌(五)て(五)餐(五)食(五)し
 然(五)と(五)大(五)澤(五)が(五)面(五)を(五)親(五)て(五)行(五)申(五)を(五)傳(五)ふ(五)心(五)得(五)が(五)此(五)足(五)下(五)の(五)氣(五)色(五)悄(五)然(五)と(五)して
 り(五)の(五)憂(五)相(五)ハ(五)何(五)を(五)煩(五)ひ(五)め(五)さ(五)る(五)小(五)や(五)と(五)問(五)ま(五)ま(五)大(五)澤(五)勝(五)を(五)進(五)め(五)今(五)日(五)貴(五)跡(五)を(五)傳(五)ふ(五)と(五)
 特(五)授(五)く(五)死(五)思(五)材(五)あり(五)そ(五)い(五)ふ(五)と(五)そ(五)り(五)別(五)あ(五)ら(五)む(五)小(五)子(五)屋(五)龍(五)良(五)と(五)練(五)て(五)以(五)書(五)と(五)懸
 し(五)ふ(五)せ(五)ハ(五)心(五)と(五)碎(五)と(五)更(五)小(五)用(五)ひ(五)と(五)身(五)を(五)害(五)あり(五)と(五)て(五)脊(五)筋(五)の(五)練(五)を(五)加(五)へ(五)んと(五)ま
 止(五)こと(五)と(五)得(五)て(五)居(五)城(五)小(五)懸(五)と(五)世(五)の(五)動(五)靜(五)を(五)測(五)ふ(五)機(五)會(五)り(五)ら(五)弟(五)と(五)水(五)走(五)走(五)り(五)織(五)田

家小仕官せし小園てその恩莫き小被るよしとけり信長仁義厚く心之
 矢中を流さるる君と小子と初めたり是小侍て主人の威風とひとひ似え
 と至水小誘きて例殺小到り。本下孫吉并小対面。遠事と被る處
 秀吉厚く款待して時時法例小傳り。信長出く言まらる。いふ事
 小や喃とて言さるる方御あり。本下も意と探知を我と分授く今日まで
 東西小務らり。是より。然ども夫とて疑心と被るは惜さ小東世の
 喉と受まると腹切らんともまき秀吉もとも小切腹をさんぞせり。忠義力武士
 小腹さるる。空換せんも不便あり。いかにせんとてまの思ひつれり貴師が律
 信長常小行中の海内を双の女子ありと。態をまする律久りと園子。是小園に
 する所を初めて將佐小くまらる。信長の親見小入る。自分不受る疑心も
 晴且本下が武道も達人と只管此儀と時まん。得る泰といふを。今

更もあつ。少のあらざるも。龍興ぬ。王道小く。不義殘忍の事のみを
 決ても天統道とくらむ。今國民の朝ふ所は偏小法例の織田小あり。織田
 信長が政道はのびく小面ても寛仁なき。誰のこもと被る。亡國の義中
 小空死せんより。有道の風小小靡うんぞと。然りや疑心と被る。一才と
 安小家なり。庶幾の喃とあり。年来朋友の好とあり。一遭織田家小會り
 玉り。大澤の家名自身の安穩助命の恩義我忘す。といふ小竹中常宗と笑
 ひこそ本下が壽業あり。再懇是中を遣りて。自と解とも欺まんや。因居
 して居るや脱小り。夫の道と棄てまは。今更何とて織田家小仕はん。弱きと
 背て強き小面廢る。せまて真る小来。小頼の徳と等。うらむ。是下の情とあり
 することあら。我心中に己小決せり。秀吉は。當小得る来て遊覧。玉ふ律をれ
 といふと大海か。返りて。吾く是中信長小降参せ。といふ。あつ。と。己國とあり

一玉としてのものさう一遭織田家小謁至も遠大澤と木下が命を奪
 ったのさうさ。濃尾の百姓の幸得さう。信重さう。次舟太走が命を捕
 せむとおがさつびきごと今頃のて然小あらを我本心の勤る富の私軍中小
 藤家の氏族悉く戦死せよ譜代の名に知らるる小新ぜん軍を欺けりあり
 後の身とて斯苦患と信ううあるとわかれり。此がた先小遠大澤と木下
 命を保ち身小彼さう。疑心を散せよ。織田の幕下小屬しなれば。小藤滅亡
 の期小際で奇計せぬらし。血液をお僕せん。計を公あり。然が小者
 家小親く小似。打て。幕藤家の微患さう。彼是の理を勤糸とて
 是下で勤めり。小。所官小死。心得とし。解き。海の竹中も小心
 是小心中感ひ。移縁さう。影相とぞと。大澤理と。謁と。頻小解。説
 る。と。小。う。行中心。魂。醉る。が。如く。稍。あり。て。重。さ。や。う。是。下。小。朋。友。の。好。ど。り。え

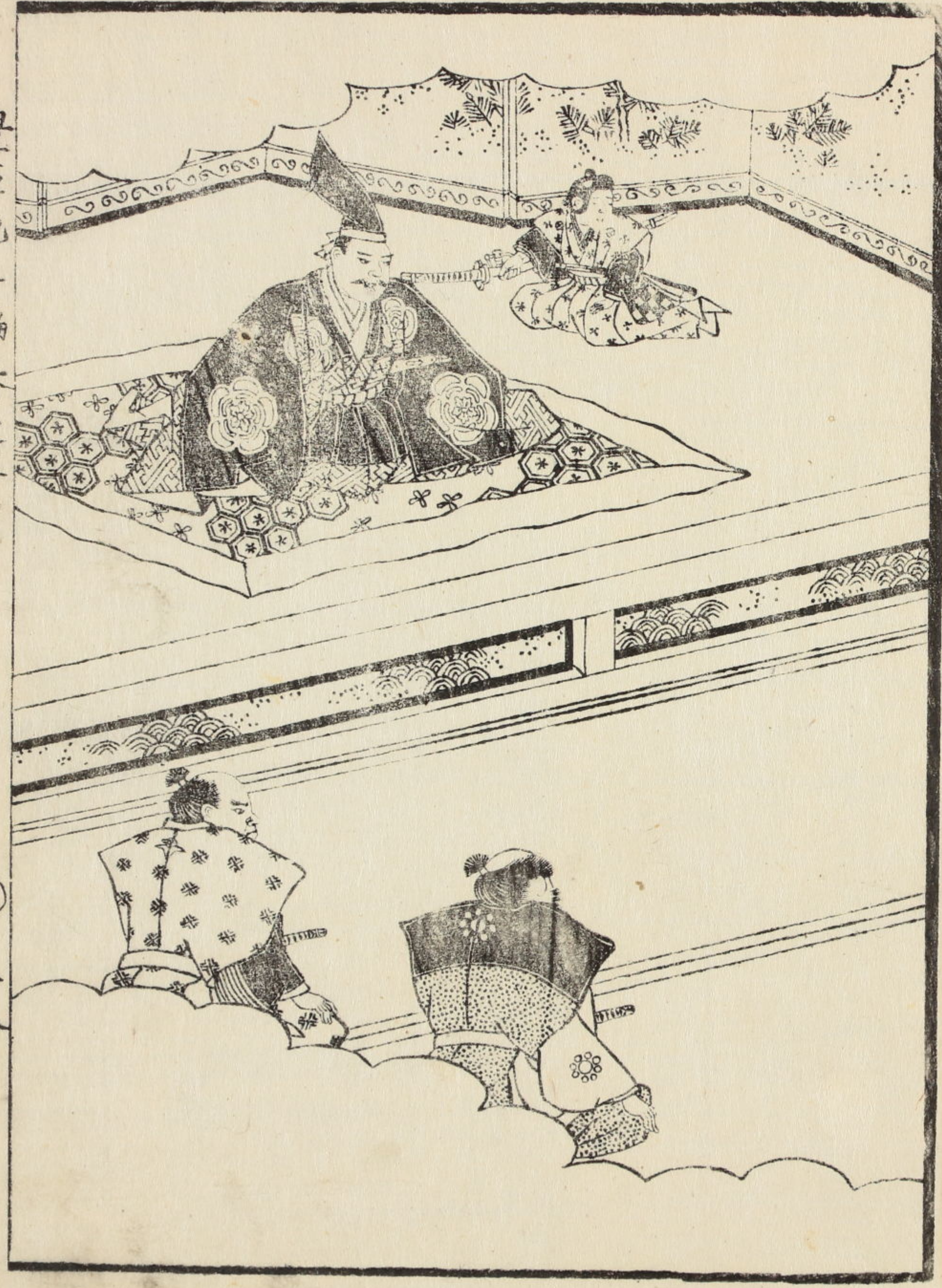
爾と勤説一玉の。月下。道。至。も。只。我。心。と。さ。る。地。の。縁。小。富。う。義。小
 肯く。候。さ。う。と。細。く。詞。の。と。朽。憾。さ。小。栗。系。の。困。厄。と。出。と。推。言。ひ。し。る。禮
 う。小。の。女。藤。家。血。脉。存。亡。の。事。小。消。け。御。あり。小。指。杖。あ。ま。小。織。田。家。小
 際。亦。さ。ら。ら。さ。い。信。長。小。謁。目。の。と。して。是。下。の。幸。福。と。あり。し。ま。う。こ。小
 者。さ。う。小。滅。び。ん。ま。さ。る。响。さ。う。子。孫。と。り。其。家。の。血。脉。お。僕。の。柄。あり。小。意
 地。と。昇。り。来。向。ま。べ。是。下。さ。ら。無。小。中。と。轉。し。て。一。と。重。さ。や。う。次。舟。太
 走。の。う。た。さ。く。勤。び。吊。時。禱。と。測。殺。小。返。り。秀。吉。小。形。と。善。し。う。小。木。下。を
 と。拍。ん。喜。悦。な。し。最。果。竹。中。も。幕。中。の。實。あり。然。は。是。下。と。茶。と。困。厄。小
 至。り。伴。さ。ん。と。お。雄。彼。山。ま。も。出。逢。ひ。義。を。演。禮。と。奉。ふ。と。終。小。竹。中。と
 禱。せ。困。厄。を。測。殺。小。擲。し。り

織田家屋敷竹中大澤属木下茂民

東臣記二編卷之三

綱織固くやくいども。鑓よくあまを断る石空半一といふとも敷きこまを判
 違事都て作らうらむを本とて行を解る事ハ豈敢て成せらるらんや
 然ども竹のふ小勝を置天竺の理あるりの秋斯よりま竹中半重清
 尉重清のふ下が智舌小解るるは例殺小来りまむが秀吉の歎び恨る
 むく。る致勝言と想にりのな。急ぎ法例へ使者と遣し大津次舟れ島
 が計畧のく竹中半重清重清と違小自方へ帰次をさしめ例殺城
 へ指さる容てとも器を頼々持り誠小園へ小違へぬ身代の軍隊小を假
 洲中知次舟小相伴ひらるるべきよしと書味せしむ信長斜るらむと恨む
 まひ竹中が將領小属する律近來本望の至りあり。急ぎる伴来るべし。
 登り對面しさんふと命を奉て使者とも返り。若命の如く本下小吉とせ
 听くゆら早く竹中小形と吉知らせ大津重時とも同道なり。うち相伴ひ法

洲小至り。秀吉者せりて案内を。信長對面の威儀と具足し竹中せりま
 りる小秀吉は違て洲中進も。體で言状をらる。最前大津次舟れ島
 若小津舘清免の機合會らる。洲中進小傳をせむてぬ義や切腹命せつけ
 らまてり。然ども大津小切腹させらる。此後勇濃武士誰あつて洲中進小降ら
 づま。若小園へ洲中進小背に小討らひりせし律。忠入る惟へども若の
 為小功と違をば清免と違る事りやと次舟れ島小初めりふ。竹中せりつ
 閑居と出さる伴に來りて推さる。竹中半重清自軍に如く推こくる
 大津が功なきは方望洲中進と清免ありて。洲中進小めさるや。偏小願ひ
 奉ると言ふまは織田敵とせしめ。堂を破他と拍せらる。ひり得らる竹中
 予心中と探知く大津と用ひり。使者出せと命ふより。次舟れ島小形と知らせ
 洲中進小進ませり。信長洲中進をらば玉ひは違る切腹のやつけし事



大澤竹中おおさわたけちゆう
 説服せつぷく
 信長のぶなが小
 謁あやむせむ



不存ありての事あり。其意を悟りておしる。おや此道の平と暇をせむ。おしる。

 たれ小心と勞。行中を將佐不招ぎ。天晴の大功德を。小刺りあり。無バ此

 後免濃小おぬ。本領安途りふま。小賢を。立功小随て。汝等加恩の計ひ

 ある。心忠節あり。懇切の命。小大澤。忍入。彈仗。信長の心中を

 益時の。懐噴り。汝小行中。小對を。まひ。久しく軍師の英名を。聞て。好

 善賢の心や。なむ。信く。意々として。今。天。小。の。小。を。縁。熱。く。来。ら。う。律

 信長が。一。筋の。悦。又。此。の。あ。る。べ。く。ら。む。孫。吉。舟。が。總。を。責。つ。不。足。を。助。け。て。能。小

 討らひ。玉。を。ま。よ。う。と。て。殊。小。懇。切。の。御。會。應。あ。り。種。々。賜。賚。を。配。ま。く。後。辭。命。を

 賜。り。ら。る。ふ。り。こ。個。う。ち。連。洲。股。城。小。降。ら。ま。け。る。此。小。侍。大。海。の。務。派。

 小。安。堵。き。行。中。の。洲。股。小。雨。居。と。暇。あ。る。响。の。木。下。と。名。法。軍。師。の。源。派。を

 更。論。と。曉。ま。す。夜。あ。ま。六。日。馬。を。練。て。暮。ま。日。あり。こ。ま。が。た。先。小。洲。股。の。主。卒。

悦。身。日。来。小。十。倍。雲。を。得。る。龍。の。像。風。小。糸。む。る。虎。小。似。り。加。之。百姓

 と。托。育。城。中。主。卒。の。行。状。と。も。一。點。半。指。私。り。ま。六。報。の。郵。收。意。注

 随。ふ。あ。こ。あ。て。よ。く。耕。作。を。勸。ま。せ。ら。る。ふ。り。近。所。を。村。の。農。民。們。父。母。妻。子

 と。引。具。て。洲。股。願。へ。後。り。ら。る。む。ぞ。今。の。御。ご。中。と。と。米。粟。米。麦。豆。つ。入。の

 荒。る。田。面。も。あ。ら。ま。ま。が。次。分。く。小。洲。股。の。城。下。繁。榮。と。て。草。木。も。靡。靡。と。ま。る。

 あり。そ。と。米。粟。米。減。く。氏。と。地。領。と。意。を。二。小。力。を。同。く。ふ。ら。う。ら。る。む。と。小。あ。お。り。

 小。孫。孫。家。の。奇。政。を。味。む。仁。政。の。君。を。得。て。安。樂。を。待。た。ま。は。ま。さ。ば。洲。股。願。は

 豊。氏。商。家。朝。々。小。を。員。を。擡。り。ら。る。由。を。糧。軍。用。今。や。山。の。如。く。小。積。ま。る。

 こ。ま。を。勤。業。と。ら。る。に。こ。方。五。六。千。石。小。を。ひ。ら。る。と。鳴。呼。賢。あ。ら。う。な。智。あ。ら。れ。

 本。の。下。秀。吉。他。年。の。企。望。一。時。小。閑。け。て。今。此。小。一。城。の。事。と。あり。移。す。を。不。成。と

 き。う。ひ。ら。げ。念。仁。政。を。施。し。ら。る。に。後。少。の。濠。列。十。八。郡。も。六。郡。

しる木下の鏡ありしとぞ

秀言呼遠中村母公親族一属招之人衆

大事公獨計らふことなき心薄らん人小同ししと最明寺殿の借白とや
今木下が行中せりて跡の如く小を教ふる徳是此歌の心せある妙まを心と
用ひしとて敵國ふして敵々くらむ脱小すの平治小ありて民の歎び凄うらむ
このまを来ふく水禄五年全く暮六年の春とらぬ思ふ小木下最言
の家行も多しと西宮濃の之人死を將佐小属と種く子更と巡らしるが地
の裡人の和ふ如くまむまむと濃列の百姓們小仁恵を施しけるなどに苛き
政事小惱し蒼生食木下の徳化と莫く死水の東流と海小帰する小
ことあらむと敵國ふしてその民の父母と莫くが如くあまば恰も樂に死こと
あらむと遠响木下孫言命熱く懐ひやらむや爾中村の故をむと

諸不と遍歴ありつるが偶仕官の才と成り父母と國と同しふ志をがら奉ふと
りて大事と。父母と訪ふ帳を。今日まで等用する傳不孝小ありぬと
ども是も君の忠義と。実小忠孝へ全ふし然るに爾今計らむと
例殺一城の事とあり六郡の民の首を受せも稍安と思さる小生せ玉つ母
公と親親族の事と遠取て孝養の務力と。事と事とと遠野彌會法を使節
とす。尾引中村(遺)をしと。浅野の急で中村小越き木下の家小別々しと
母公小對面し。次小親一人とせ残らを集めて例殺許(所)城中づらと
岩路次の船費の程願として黄金數多とせと違ふと。浅野が兼佐小
く中村より例殺まで七里余程の驛々小休息不とあらふ小仮構不不足
きく贈ひり。中村小残を居むひり。孫言命が母公へ六年来以若小別は
ま。稀小消息へ聞つと。其後影見し傳もむ。我子いさむつと事

全書又巻の序
の事この此小
うらむと
二年分米死
しるといふ
事ありと

昨日も今日も近國の小軍のありては風園の中絶た小的の死ハせぬ戦死
 までとて死もやせんとの句に瞬たる際もいふを忘る律のあつべき懐悩して兵
 らまし一帯(新)便宜せたりとて所りもつと懐びの警へんをなく孫助の事
 初として小市より妹の朝日。派師五市助までも採りて別後方城小坂
 了後の部小坂さきより時小下出て對面なり。疏縁のことどもと解結して居
 南敵國の此城を守護する身小准(六)容易に出て近(七)居るが待たぬ
 せ一糸若小仕ふる身の勤めへ在りてゆさむまふと一と最懇切小演(八)遠時
 津野依奔走して山小志る孫葉の種く海よ尋る音相の品心乃及(九)限りて
 款待及哺の孝小當々(十)申村の賊が居小ひれ替りたる不見小母公の悦び
 親族の面用うびりてなくぞ見へ小る。左右小(十一)日も暮るるが秀吉親(十二)に
 族小對(十三)新(十四)呼(十五)進(十六)へ(十七)ま(十八)ら(十九)ま(二十)う(二十一)ハ(二十二)久(二十三)く(二十四)遠(二十五)城(二十六)中(二十七)小(二十八)至(二十九)れ(三十)て(三十一)ま(三十二)つ(三十三)り(三十四)好(三十五)自(三十六)述(三十七)る

△此城助ハ
 名トめ上
 之水の家
 つりい
 後秀吉
 殊止あり

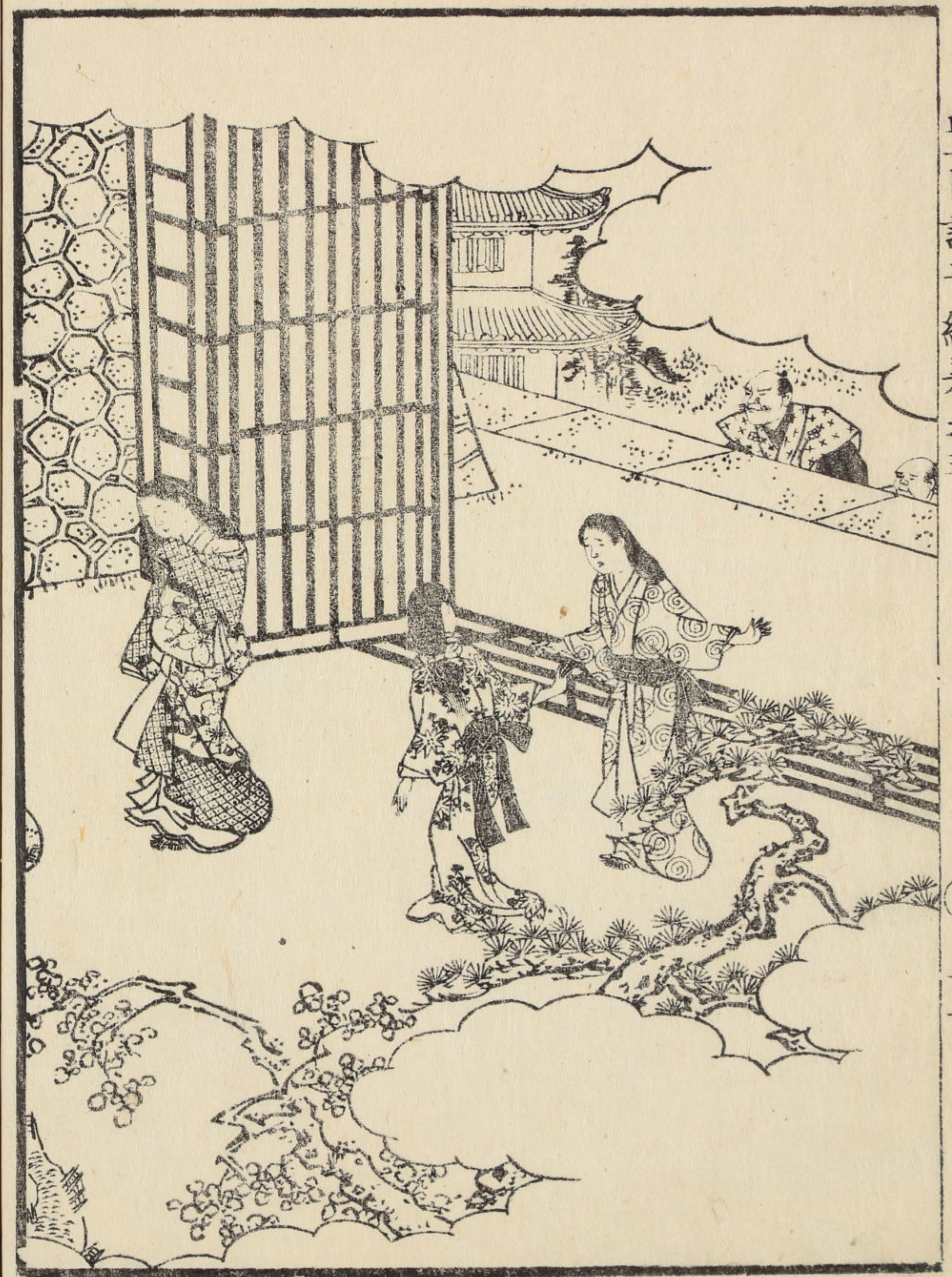
事く候し願ふ不あることも遠城全く秀吉が安途の住居小准らとて
 別の地と取づき是助小孫(一)城(二)を(三)六(四)時(五)と一(六)款(七)進(八)来(九)り(十)合(十一)戦(十二)ヲ(十三)挑(十四)む(十五)事(十六)も
 あり一日に時安穂あらどま小然(十七)る(十八)尾(十九)列(二十)る。清洲城内の小(二十一)が(二十二)部(二十三)ハ(二十四)中(二十五)の(二十六)今(二十七)より(二十八)彼(二十九)不(三十)移(三十一)希(三十二)を(三十三)沖(三十四)安(三十五)途(三十六)の(三十七)義(三十八)ヲ(三十九)計(四十)ら(四十一)る。孫助小(四十二)部(四十三)の
 西人の遠城中小留(四十四)え(四十五)居(四十六)る。時小(四十七)慈(四十八)と(四十九)用(五十)ゆ(五十一)と(五十二)て(五十三)姉(五十四)妹(五十五)小(五十六)母(五十七)公(五十八)と(五十九)枝(六十)助(六十一)と(六十二)余
 の親族とも悉く清洲城中へ送る遣(六十三)り(六十四)再び(六十五)清(六十六)野(六十七)に(六十八)使(六十九)り(七十)て(七十一)遠(七十二)事(七十三)義(七十四)の(七十五)言(七十六)状
 一(七十七)に(七十八)六(七十九)徳(八十)田(八十一)殿(八十二)も(八十三)秀(八十四)吉(八十五)が(八十六)孝(八十七)心(八十八)の(八十九)程(九十)と(九十一)感(九十二)ト(九十三)玉(九十四)ひ(九十五)母(九十六)と(九十七)召(九十八)ま(九十九)す(一百)時(一百一)々(一百二)ハ(一百三)多(一百四)報(一百五)謝(一百六)と
 賜賜(母)心と慰めたる目本小(母)姉妹ハ(叙)て(煙)入(藤)井(の)小(對)面(一)り(二)る(三)心(四)懐
 いと親茶相貌さへ美しき六。通小(孝)慈(淡)うらむ。和合して(居)緒(と)送(ら)る。又
 例段小(木)下(小)市(節)の(秀)吉(申)村(彌)助(秀)吉(の)兩(士)を(得)の(づ)き(も)竹(津)を(降)
 と(ま)つ(の)公(法)と(學)を(せ)る(程)小(番)用(小)て(遣)ら(る)ま(は)る(御)目(小)上(遣)ら(る)



秀吉
洲段の城主
たるに 賢て
親属と請て
歓悦を勧む

豊臣巴二編卷之三

廿二



豊臣巴二編卷之三

廿二

又後治五郎助が子虎之助此歳二歳ふきども大抜小力別く。四五歳量お三ヶ
まばこま九人小ハあふさふ。他来少ハ腹痛心くらんと清洲の城内ハハ九把ら
る。春之助ハ永禄五年壬戌 借も春過秋去ハハ年の冬もまふらるが
本下頼ハ西之濃の之人衆と辨まらる。後兼伊豫守。安藤任賀吉。氏家常陸
と將佐小せん。必希より又まて思らしらる。竹中と三人元ハハ事承り熱態ある傳
と知り。武日重治が困窮小判を遠事と謀策するに重治笑ふ。向ふこまらるハ
乃夫此地小まらる生ハ止事と得ざる。深義あるまらる。他人ハハある。本下小此來の
人情計り。こ人の不務ある。足下の頼て熱練。まふ。智計とて
招きまらる。一人集めて伏し多。二人ハハららる。同心と。謀計ハ都て備り。他とて
城と約。軍中の智とゆふ。まらる。足下の智と招き。本下とこゆふ。得ある。まら
ど。と我指揮小及んやと。招き。方便と更小言らる。本下と得の智者をまら

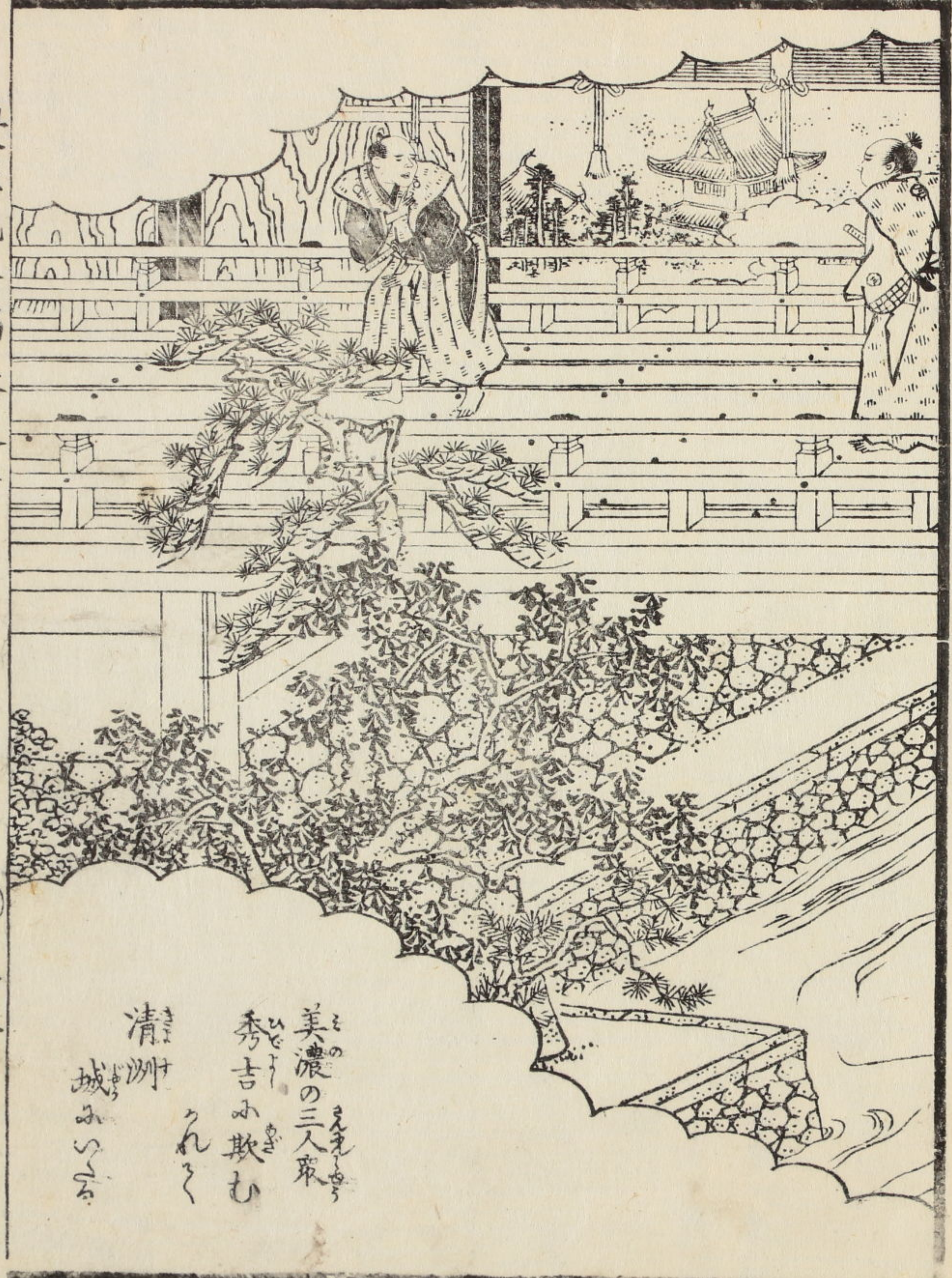
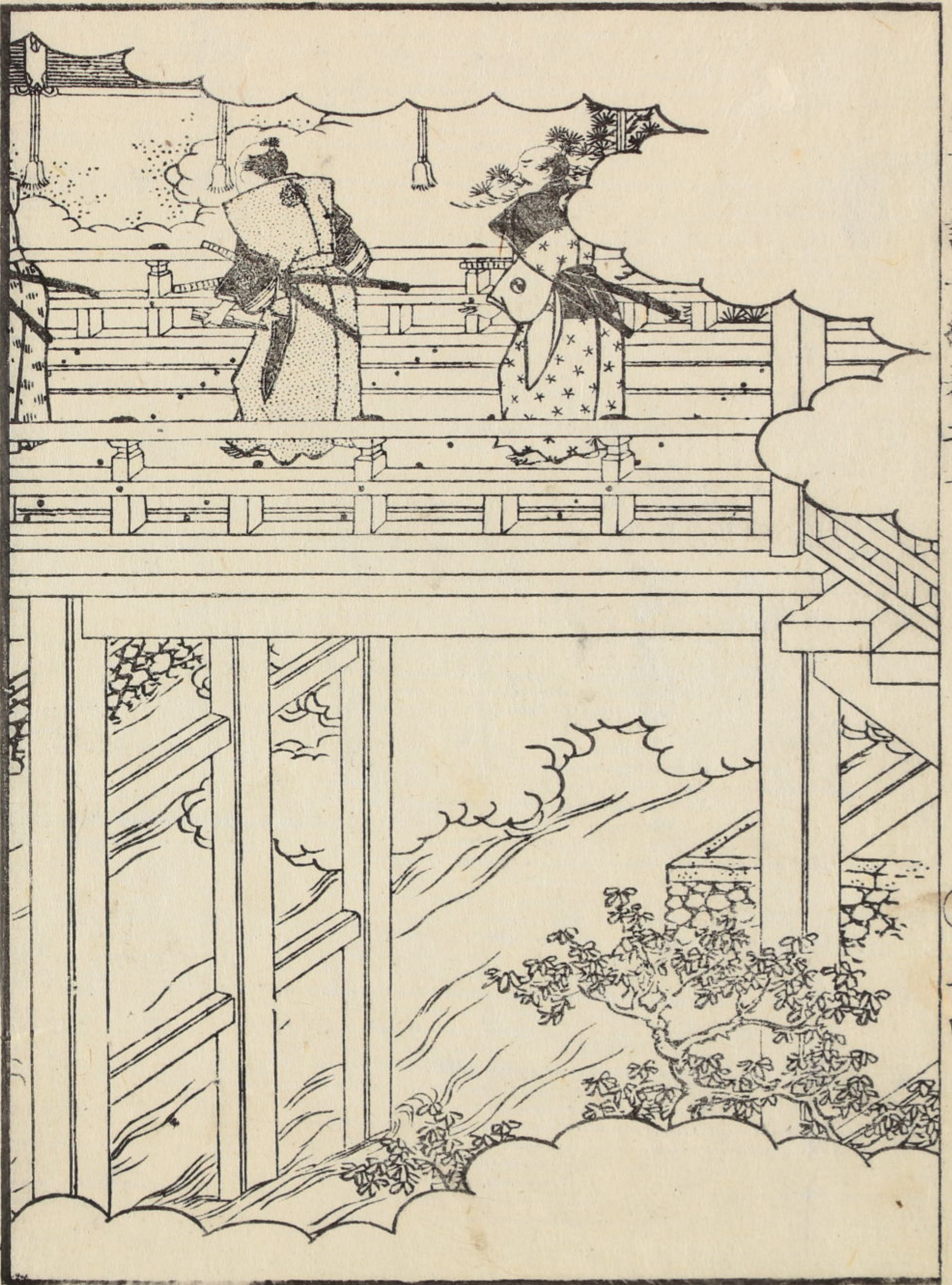
忽小その心と謀再び竹中と謀策。右筆の者を呼出。竹中重治が。小
似せ。鷹さ。書簡の條ハ重治別後小後。任ハ身と安藤小過ん。まらる。今
當國の風と標。に。秋孫家の滅亡。遠らる。方々小ハ清心。まらる。まらる。まらる。
合戦小國と亂。民と若。まらる。まらる。清計と肝要。諸又。遠と斬。て
東治と。大將軍ハ。絶及。小らる。實小。織田の軍軌尋常。まらる。方々小
よく。所及。まらる。又。小見。一層。雄。大將。多。お。小。情。小。別。股。多。
乃。まらる。雨。居。ハ。清。越。あ。まらる。本。下。が。軍。配。を。清。賢。あ。り。ひ。乃。まらる。乃。まらる。乃。まらる。
も。知。まらる。ん。まらる。と。家。や。小。まらる。まらる。一。通。づ。の。書。簡。と。も。こ。人。の。使。者。小。まらる。まらる。
らせ。後。まらる。安。藤。孫。氏。家。の。こ。家。ハ。志。の。び。や。小。遣。らる。諸。こ。人。元。の。孫。小。お。め。ハ。早。速
書。簡。と。同。様。ハ。竹。中。が。申。渡。り。し。詞。を。理。あ。ら。ら。ら。り。列。事。も。まらる。頼。ハ。こ。家。は
人。も。秋。孫。之。家。と。謀。し。機。會。を。まらる。まらる。國。中。奉。り。智。者。と。呼。まらる。重

豊臣記二編卷之三

十一

治が勅を交と心を決し。一人一石小密會あり。遍小行中が書あせり出。
 漢合をまふ全ト文章筆法もまじしく重治が自筆小御相違ありれば。
 一寸疑がらそ一人一奇。例後城小素小なる也。本中最若より符符け固也
 開て逆積を。こ家心小訝るるがら。些も屋する。筆色なく。浅野が案内小
 伴らきて密堂小進投也。本中まづら出逆へ懸懸小務也布。乃子當
 城せ受守孫吉命とりふと者あり。一人衆の功名はくぐ固かよびて外
 事あがら。墓をしく好トいふ。重治通信のふさま。今日當城へ今來の程
 乃子當望満足せり。覆く行中先生小も清出のやとせ待信らま。乃子當
 今朝清別より急の旨よりし難一通の書を殘さきては清別城へ四
 ましるま。先遠書簡と清覽せよ。一封の書を渡し。乃子當封か一切
 て是を親るに當城を清越ある上の本中と共小清別へ越まよ。法事

清別を冲意得と書記し。る小うち信を再び本中小誘きて。清別城
 小趣きたり。本中へ已小使者とりつて。清別へ遠事と告るるや。こに。そ終
 準備して逆宮之人衆の心の内小織田とら矢ハ引ねども。尾張と美濃
 ハ敵國あるう。酒家之人ハ敵小くても。謀く。此者とありふべきと。然ハるく
 武備のう。先もさ。居城の内へを死投し。信長が心の覺さよと感佩
 しく来あがら。も有係敵國の城中あり。心中をこしも。計あり。本丸小
 登らま。行中更小出達とぞ。殊小訝く。ありふ。本中再び出ま。
 重治大人ハ三人元の清出の逆とせ待ら。中途や。達のふさんと例後
 へ帰らま。彼此の艱難をのぞく。計ら。つら。と呪罵と。
 柴田依久間不破森池田の老居達。小出来。禮儀を。款待
 する。機會うら。林依源守。ま。出。何とあら。三人元も。小從



美濃の三人取
 秀吉ふ欺む
 清洲
 城

行不おど小こ對面たいめん應お不ふ伴ばんたり。織お田た原はら嚴げん不ふ長ちやう奉ほうと。禮れい式しき正せいしく對面たいめんと
 と人ひと一いつ回かい小こ重じゆう治ぢし。信のぶ長ちやう津つ声せい兼けんし。濃のう別べつの土つち波なみ交まじ有あらで
 是こゝ下した依よ三人さんにんの右みぎ小こ出でる。族しやくと弟あにと。所ところ及およぶ。心こゝろぞの對面たいめんさし
 小こ此こゝ重じゆう治ぢが重じゆうせし。朝あさ小こ隨ずいふ。こゝろこゝ入い来きあらし。こゝ此こゝよ
 下した。行ゆ中ちゆう大だい津つ依いと結むす合あて。兵へい潔けつ淨じゆう愼しんせ。えうらせ玉たまと。懸けんの
 人ひと衆しゆうの再またび。情じやうさ。目め只ただ惘ぼうしく。稍しやう小こ刻こくの。こゝも。一いつ奇き小こ願げんを。擡たげ
 命めいせ。謝しゃ願げん了りやう。候こう。行ゆ中ちゆう大だい津つ依いと評ひやう後ごの。よ。時とき弟あにと。見みあ
 請こゝろ奉ほうしん。し。濃のう別べつ平へい伯はくの謀まうと。あらし。共とも中ちゆうしく。登のぼり。信のぶ長ちやう本ほん不ふ致ぢ
 多おほし。種しゆの。聘へい聘へいひ。せられ。登のぼり。降くだる。の。名なも。こゝ
 一いつ。濃のう尾び自じ然ぜんと。合あ辭じせ。こゝ。偏へん小こ本ほん下したが。智ち計けいあり。こゝ人ひと流りゆうも。小こ安あん達だつの
 思おもひ。本ほん下した依いとも。謝しゃ辭じあり。と。例れい股こ城じやう小こ帰かへり。属しゆく秀しゆう吉きち一人ひとり行ゆ中ちゆうが。困く居き小

列れつ了りやう。人ひと流りゆうと。執しやく計けいあり。始はじめ終しゆう詳じやう小こ詔しやくけり。中ちゆうも。解げく。色いろ小こ。及およ簡かんと
 一いつ。歌うたと。討うつ。こゝ。戦せん國こくの。常じやうも。六む。响きやうと。是こゝと。恨うらむ。こゝ。事ことも。西せい會かい
 一いつ。是こゝ下したの。術じゆつと。帮たす助すけし。使つか伴ばんも。こゝ。小こ詔しやくび。安あん達だつ移うつ也や。氏うぢ之の詔しやくと。誘いひ。
 行ゆ中ちゆうが。詳じやう小こ至しり。こゝ人ひと衆しゆう。對面たいめんし。遠とほ遭さいの。事ことと。詔しやく出でる。小こ重じゆう治ぢ所ところも。笑わらひ。
 响きやう當たう城じやうへ。移うつし。こゝ。全ぜんく。氏うぢと。安あん達だつ小こな。さん。こゝめ。の本ほん意いも。六む。敵てきを。り。詞ことば詔しやく
 懸けん。詔しやく。河から。こゝ。う。さ。と。更さら。他たの。事ことと。信のぶら。ね。こゝ人ひと衆しゆうも。本ほん下したの。謀まうと。い
 心こゝろつ。誠まこと小こ重じゆう治ぢの。誘いひ。と。こゝ。ひ。と。こゝ。區まる。小こ居き城じやうへ。と。こゝ。帰かへり。れ

繪本豊臣勳功記二編卷之三 終

